

今夏7月、創立10周年を迎える

チッソ旭肥料(株)の回顧と展望

チッソ旭肥料株式会社

チッソ旭肥料(株)設立への歴史的展開

チッソ株式会社と旭化成工業株式会社の両社は、わが国農業の発展に貢献するため、かつわが国化学工業のバイオニアとしての「旧日窒グループ」の伝統を発展させるため、去る昭和44年7月1日を期して両社の肥料事業部門を集約統合して、ここに当チッソ旭肥料株式会社を創立致しました。

以来、激動きわまりない内外の諸情勢の展開に、総力を挙げて業務に邁進致して参りました結果、来る7月1日を以て創立10周年を迎えることになりました。この間、関係各位から寄せられました、絶大なご支援、ご鞭撻の数々を思うにつけ、感慨新たなるものを覚えます。

7月1日当日は、改めてご挨拶を申し述べますが、この機会に、チッソ旭肥料株式会社創立に到るまでの歴史的展開とともに、新しい農業の発展と、これに対処すべきわれわれの考えについて申し述べたいと思います。

<明日の農業を考える>

1970年代に入り、わが国の経済は高度成長から安定成長へ転換するために、国をあげて産業構造の転換が、すすめられています。この安定成長への移行は、ナショナルリズムの台頭、世界的な資源の見直しに基づく価値体系の変動が大きな原因となっています。とりわけ、わが国は、国土が狭く天然資源に恵まれないため、大きな影響をうけました。

このような状況下で、われわれはどんな方向にすすむべきでしょうか。幸いにも、われわれは農耕に適した気候風土と優秀な日本民族という2つの長所をもっております。

今後は、この2大長所を結合し、農業と工業の調和のとれた繁栄をめざしてすすんでいくことが、国民生活を豊かにしていくものと確信します。

すなわち、食糧の自給率を低下させていった高度成長時代の政策から、もう一度、わが国成立の原点にかえっ

チッソ旭肥料(株)の概要と製品

・社名	チッソ旭肥料株式会社 Chisso Asahi Fertilizer Co., LTD.	<化学肥料>	
・設立	昭和44年7月1日	くみあい磷硝安加里	
・資本金	1億2,500万円	くみあいCDU化成	
・株主	チッソ株式会社(50%) 旭化成工業株式会社(50%)	くみあい複合磷加安	
・事業内容	化学肥料および農業資材の販売ならびにこれに付随する事業	くみあい磷加安	
・本社	東京都千代田区霞ヶ関3丁目2番5号 (霞ヶ関ビル)	ロング	
・工場	チッソ株式会社 水俣工場 戸畑工場(九州化学工業(株)) 旭化成工業株式会社 薬品工場(延岡工場) 富士肥料工場	ハイコントロール (コーティング肥料) グリーンパイル (庭木・樹木打込み肥料) 硫酸加里 硫安 CDU窒素 磷安	
		<農業用資材>	<くみあいカンミロン寒冷紗>
		<建材用原料>	石膏

て農業を見直し、これをベースとして、工業の繁栄策を
考えてゆくことが、国民的課題なのであります。

当社は、わが国で初めて石灰窒素、合成硫酸、高度化
成肥料を世に送り出し、近代農業の発展に大きく貢献し
た歴史を持っております。

今後も化学肥料をはじめとする各種農業資材の開発供
給を通じ、明日の農業の一翼をになうという自負をも
ち、心をこめてより良い製品を世に送り出したいと考
えております。

本誌「農業と科学」発行の使命

本誌「農業と科学」発行の使命は、要するに前述致し
ました「明日の農業を考える」当社の使命推進の具体化
の一つであります。

本誌も来る7月1日を期して、当社同様、創立満10周
年を迎えますが、本誌の前身である「硫酸安時報」は、
既に去る昭和31年10月5日付を以て第3種郵便物の指定
を受けておりますので、今日まで通算致しますと、実に
4半世紀近い23年という歳月が経過している訳で、「来
つれば来つものかな」……と、今さらのように感慨を
覚えます。

戦後のわが国肥料業界には定期・不定期刊物が、一
時は百花繚乱と競い合いましたが、20数年経過した今
日、発行が継続されているものは本誌以外、誠に寥々た
るもののように。それだけに本誌としては、その使命の
重さを考え、ますます内容を充実し、読者各位のご期待
にそうよう努力する所存であります。

チッソ旭肥料(株)の歩み

当社は、わが国で初めて石灰窒素、合成硫酸を開発
し、世に出した日本窒素肥料株式会社を母体とするもの
です。ここに、日本窒素肥料株式会社、チッソおよび旭
化成工業株式会社3社の概要を記します。

●日本窒素肥料株式会社

- 明治39年1月 曾木電氣株式会社を設立
- 〃 41年8月 社名を日本窒素肥料株式会社と改称
- 〃 42年5月 水俣で、わが国初めての石灰窒素肥料
工場建設着手
- 大正11年8月 延岡で、世界初めてのガザレー式アン
モニア合成法によるアンモニア工場お
よび、わが国初の合成硫酸工場建設着
手
- 昭和2年5月 北朝鮮での世界有数の一大総合化学工
場である朝鮮窒素肥料株式会社設立
(年間生産量……硫酸40万トン、硫酸

安5万トン)

- 〃 3年6月 延岡で村山式合成硝酸設備完成稼働

●チッソ株式会社

- 昭和25年1月 新日本窒素肥料株式会社を設立
- 〃 30年2月 わが国初の燐安系高度化成肥料設備完
成(水俣)
- 〃 35年1月 九州化学工業株式会社設立、燐酸2ア
ンモニアおよび同系高度化成肥料生産
開始(戸畑)
- 〃 40年12月 チッソ株式会社と改称
- 〃 41年3月 自社開発によるCDU肥料設備完成
(水俣)
- 〃 43年7月 燐酸2アンモン系高度化成肥料設備完
成(水俣)

●旭化成工業株式会社

- 昭和6年5月 延岡アンモニア絹糸株式会社設立
- 〃 21年4月 旭化成工業株式会社と改称
- 〃 25年5月 畑作用肥料として開発したわが国初の
燐硝安系高度化成肥料を生産開始(延
岡)
- 〃 35年12月 需要増に対応し、肥料工場増設(富
士)
- 〃 46年4月 水島に大型アンモニア工場完成
- 〃 〃 11月 硝酸増設工事完成(659T/D 体制確
立)

あとがき

イランの政変がやむ一段落したと思
ったら、今度は去就が注目されていた
中国とベトナム両国が干戈を交じえる事態に発展致
しました。中国はこらしめのため、まだあと10日間
が必要だということだそうですが、事態が次第に混
迷の度を加えて行くことだけはご免をこうむりたい
ですね。ということは、世界的に経済的、産業的基
盤に大きなヒビが入ることになるからで、資源の大
半を輸入に待たざるを得ない我が国にとって、決し
て好結果をもたらすとは考えられないからです。

ともあれ2月号をお送り致します。本文でご承知
のようにわがチッソ旭肥料株式会社は、来る7月1
日をもちまして創立満10周年を迎えます。

本誌も同じく10周年を迎えますが、歴史的にはチ
ッソ株式会社の前身である新日本窒素肥料株式会社
時代、昭和31年10月5日付で第3種郵便物の指定を
受けていますので、ちょうど23年の歳月が経過した
訳です。編集子は、今さらのように歳月の流れに想
いを走らせています。